

報告

専門英語教育にグループ制作を取り入れることの学習効果

山崎麻由美¹⁾ 福田 昌代²⁾

Effects of Cooperative Learning in ESP Classrooms

Mayumi YAMASAKI¹⁾ and Masayo FUKUDA²⁾

要 約

本稿は、歯科衛生士を目指す大学生の専門英語科目「医療英語」で導入された「グループ制作」の効果を報告するものである。学生たちは小グループに分かれて、「子どもたちに口腔の健康について教える」という課題に取り組んだ。そこで英語を使った紙芝居などの媒体を自ら考えて制作した。英語で発信をする制作物の作成過程で、学生たちは専門英語を学ぶことに対する不安が軽減され、発信することへの関心や意欲が高まり、自らの手で完成させたことに達成感を得た。またグループ内の学生同士の関わりや他グループの制作を鑑賞することで、学生たちは「相手の立場に立ってわかりやすく伝える」ことの重要性に気づいた。一方で、伝えたいことを英語で自由に表現することができないというジレンマを訴えた学生が多かったという問題点も出た。制作発表を終えた時点で、学生はそれぞれが抱える英語学習の問題点を認識することができた。

キーワード：専門英語教育、学習方法、グループ制作、学習効果

Summary

This paper reports effects of implementing cooperative learning in a course of English for specific purposes (hereafter, ESP) for first year university dental hygienist students. In the course, the students voluntarily formed a small group of two to five, and with the purpose of teaching children about oral health, each group created teaching aids, such as picture-story shows or puppet plays. As a result of working together, the students' anxieties about learning ESP seemed to be reduced, whereas their interest and motivation toward output seemed to be increased. In the students' post-activity reflections, the students reported feeling a sense of achievement with their fellow group members. Also, the

1) 保健科学部看護学科 (教育イノベーション機構)

2) 短期大学部口腔保健学科

interacting with fellow group members and the appreciating of production and performance by other groups seemed to make the students realize the importance of communication skills. The notion of audience dawned on the students, which resulted in their efforts to make their English easier and clearer for small children. Many of the students had difficulties in creating their production in English, however, and felt frustrated at not being able to express themselves freely. By the end of the group work every student reported becoming aware of her own problems in English learning, which included a lack of grammatical knowledge, vocabulary, and/or fluency.

Key words : English for Specific Purposes (ESP), cooperative learning, group work, effects of cooperative learning

1. はじめに

本稿は、神戸常盤大学短期大学部口腔保健学科の1年後期必修科目「医療英語」の授業で、専門英語の学習における動機を高めると共に英語で発信することへの積極性をつける目的で導入した「グループ制作」の実践報告である。

2. 実践の背景

英語に苦手意識をもっている学生は多い。学生への事前無記名アンケートで「英語は好きですか?」という問いに「はい」と回答した学生は全体の19%に対し「いいえ」は54%だった。その理由としては「わからないから」「難しいから」というものが多く挙げられている。(Appendix A)

アンケートが取られた時点で3年次の海外研修に参加しようと考えている学生は全体の18%である。この理由としては「興味がある」「海外の歯科衛生士のことを知りたい」「視野を広げたい」という積極的なものが多かった。「行かない」「わからない」と回答した学生が理由として挙げているのが費用面での不安と英語ができないからの2点だった。1年生後期が始まったばかりの段階では、まだ先のことを考える余裕がないため海外に目が向かないためと考えられるが、英語が「苦手である」、または「嫌いである」ということが海外へ積極的に目をむけさせることを妨げていることも事実である。

また、専門の英語を学ぶということに不安を抱え

ている学生は多い。アンケート項目9「医療英語では何を学びたいですか?この科目に対して何か不安なことはありますか?」という質問に対しては89人中57人が記述しているが、「楽しみ」「海外で働ける英語力を身に着けたい」と積極的な内容を書いている者は7人だったのに対し、「英語がわからないのについていけるか」と不安を訴えた者は33人だった。また学びたい内容については17人が「役に立つ英語を学びたい」と入職後に役に立つ英語を学ぶことを望んでいる。

以上のような背景をもった学生約90名に対して必要なことは、専門英語学習への不安を和らげることと、歯科衛生士として働き始めた時に役に立つと実感できる内容を授業に盛り込むことと思われた。

シラバスの学習の到達目標は「歯科医療で使われる英語の基礎知識の定着と実践的な活用を目指す」とし、その到達目標を実現するために、授業では「1. 口腔保健に関する様々な英語に触れること 2. 現場でのコミュニケーションに必要な英語運用能力をつけること」に重点が置かれると初回授業で学生に提示した。テキストは医療系専門の出版社から出ている歯科衛生士向けの英語教本を使用した。テキストは大きく2つのセクションに分かれている。臨床現場に必要な会話表現のセクションと歯科衛生士の業務に必要な専門用語のセクションである。このテキストにより、上記の授業の重点項目1の「口腔保健に関する様々な英語に触れる」と2の「現場でのコミュニケーションに必要な英語運用能力をつける」を学ぶことになる。そして「グループ制作」は

学習の成果の位置づけとして実施した。

3. 実践の目的

- 1) 「グループ制作」を導入することで英語に苦手意識をもつ学生に専門英語学習への動機づけとなること。
- 2) 自分たちで計画し、作り上げ、発表することで英語でのコミュニケーションへの自信とやる気を育てる。

4. グループ制作物の内容と目的

2～5人のグループで幼稚園児から小学校低学年の幼児・児童に口腔の健康について教えるための制作をする。媒体はグループで決定する。発表時間は5分間である。この制作の目的は以下の6点である。

- 1) 入職後の実務と乖離していない内容を学ぶ。
- 2) 複数人で作品を作り上げる過程で、自分の抱える課題を見つける。
- 3) グループで取り組むことで学習意欲を向上させる。
- 4) 絵などの媒体を用いて発表することで、コミュニケーションには言語以外の要素（身ぶり、表情）なども大切であることを学ぶ。
- 5) 他グループの発表から自分たちが制作過程で気づけなかったことを学ぶ。
- 6) 課外学習の時間を増やす。

5. 実践の対象・科目名・時期

- 1) 授業科目名：医療英語（1年次必修科目）
- 2) 対象学生：88人（2クラス：学生番号順クラス分け・履修登録者90人中、実際に受講した学生数）
- 3) 時期：2013年度 後期
- 4) 実施回数：第3回目授業以降、授業外の自主学习。第13回、14回授業内でのグループワーク。各クラス内発表会（15回目授業）

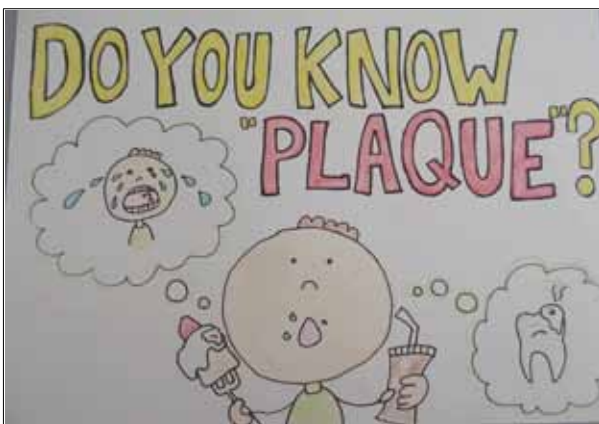
6. 実施の手順とスケジュール

- 1) 学生が自主的にグループを決定する（2～5人）。
- 2) グループでテーマを決定する。テーマは口腔保健学科の歯科衛生士教員から示唆のあった15テーマ（Appendix B）である。これは、口腔指導の現場で実際に使用できるテーマであり、学生には授業内だけのものにとどまらず、現場で使用できるように現実的な物を制作させることを目的とした。また、1年次後期の学習進度で考えることができるテーマとした。このことから、学生時代の専門英語教育と実際の現場との乖離を防ぎ、教育と実践が連携することにつながることを期待した。グループ間で選択したテーマに偏りがあった場合は調整する。
- 3) グループ計画シートを提出（Appendix C）させる。スケジュール表を配布し、必ずグループで計画を立ててその通りのスケジュールで進めるよう指示する。
- 4) 日本語原稿を提出する。
- 5) 英語原稿を提出する。
- 6) チェック済み原稿を返却する。書き直しの上、再提出する。
- 7) 発表の順番をくじで決定する。採点基準の発表をおこなう。
- 8) 発表当日 peer evaluation sheet を配布（Appendix D）し、授業後に回収する。
- 9) 「ふりかえり」を目的とした用紙の配布（Appendix E）し、後日提出させる。
- 10) peer evaluation sheet の評価を集計する。各クラス上位3グループを選ぶ。
- 11) その6グループで学科教員に向けて発表会を行う（Appendix F）。

スケジュール

| 授業回数／時期 | 内容 |
|----------|--|
| 第3回授業 | グループ決定 |
| 第6回授業 | テーマ決定 |
| 第7回授業 | グループ計画シート提出・スケジュール表配布 |
| 第8回授業 | 日本語原稿提出 |
| 第11回授業 | 英語原稿提出 |
| 冬期休暇前日 | 英語原稿返却 |
| 第13回授業 | 英語原稿再提出と返却（第14回授業開始まで）授業の一部で制作英語原稿再提出（一部のグループのみ） |
| 第14回授業 | 発表練習・発表順決定・採点基準発表 |
| 第15回授業 | 発表会（1グループ5分） |
| 後期試験までの間 | 「ふりかえり」用紙の提出 |
| 後期試験終了日 | 代表の6つのグループの教員対象発表会 |

作品



7.1 結果

学生の「ふりかえり」(Appendix E)の学生の自由記述回答を「4. 実践の目的」、「5. グループ制作の目的」に関連したキーワードで分類し集計した。カッコ内は延べ人数とする。(記名式自由記述回答 回答人数 81人)

①グループでの自分の役割について

原稿に関するもの

- ・英訳をする (19人)
- ・文章を作成する (13人)
- ・原稿作成に関する参考書を集める (3人)
- ・原稿の原案を作成する (6人)

媒体作成に関するもの

- ・媒体を作成する (50人)

発表に関するもの

- ・発表方法の検討をする (2人)
- ・自分のパートを確実に発表する (5人)

協同作業に関するもの

- ・グループのまとめ役となった (4人)

②難しかったところ

英語に関するもの

- ・英文を作成することが難しかった (25人)
- ・英単語の発音や英文を読み方が難しかった (19人)
- ・聞き手に伝わるような読み方をすることが難しかった (5人)

- ・聞き手（対象年齢の子ども）に伝わる表現を考えるのが難しかった（9人）

媒体に関するもの

- ・媒体の工夫が難しかった（6人）
- ・わかりやすい媒体の作成が難しかった（4人）
- ・媒体の使い方、操作が難しかった（3人）
- ・色塗りなど作成が大変だった（1人）

発表に対するもの

- ・対象年齢を意識して伝えることが難しかった（14人）
- ・伝える工夫の仕方が難しかった（2人）
- ・緊張してうまくいかなかった（3人）
- ・時間制限があったことが難しかった（4人）

協同作業に関するもの

- ・作業する時間をとることが難しかった（4人）
- ・役割分担が難しかった（2人）
- ・まとめていくことが難しかった（1人）

③やりがいがあったところ

協同作業に関するもの

- ・協力して全員で作り上げたこと（25人）
- ・リーダーシップをとったこと（1人）

制作に関するもの

- ・作品の完成度（32人）
- ・英語原稿の完成や教員の高評価（15人）
- ・子どもへの伝え方を検討したこと（11人）
- ・発表の完成度（7人）
- ・英語学習の効果（5人）

④その他

- ・制作や発表が楽しかった（18人）
- ・達成感があった（9人）
- ・他グループの発表を見るのが楽しかった（3人）
- ・他でも発表してみたい（2人）
- ・発表の時みんなの反応が薄くてショックだった（1人）

⑤制作を通して気づいた英語学習での自分の課題は何か

語彙に関するもの

- ・知っている単語が少ない（17人）

音読に関するもの

単語レベルのもの：

- 発音がわからない・正確に発音できない（22人）

発話レベルのもの：

- アーティキュレーションがわからない（4人）
- 流暢に読めない（3人）

聞くことに関するもの

- ・リスニング力不足のため、他グループの発表がわからない（5人）

ライティングに関するもの

- ・英語で文章を作ることができない（19人）

コミュニケーションに関するもの

- ・人に伝える時には相手の立場に立ってどうすれば理解しやすいかを考えること（9人）
- ・言葉以外の、表情、しぐさ、抑揚などの必要性（1人）
- ・声の大きさや話すスピード（1人）

学生の回答より以下のことがわかる。

- 1) 「①グループでの役割」より、学生が最低1つ以上のグループでの役割を持って取り組んだといえる。
- 2) 「②難しかったところ」より、特に英訳や発音など英語に関することが多く上がった。歯科の知識については日常の専門学習が活かされていたため上がらなかったが、対象とした小児に対する媒体作成に難しさを感じた学生が多かった。
- 3) 「③やりがいがあったところ」より、グループでの協同作業をあげる者、作品を完成させ、発表した満足度に関してあげる者が多かった。また、数名ではあるが、英語学習の効果を感じた学生もあった。
- 4) 「④その他」より、制作を楽しんで取り組んだことや達成感をあげる者があった。

- 5) 「⑤制作を通して気づいた英語学習での自分の課題は何か」では英語学習に関する未熟さを実感した回答が多かった。また発表を通じて声の大きさや仕草など言語以外の要素が発表では重要であるという者もあった。

7.2 学生の回答からみられる学習効果

上記の学生の回答から、今回の協同制作で得られた学習効果をまとめると次の3点である。

- 1) 協同学習の効果が見られた。英語が苦手な学生が多い中、グループ内で協力して完成し達成感を得たことの意義は大きい。また、制作に関しては授業内でグループ作業にあてたのは最後の練習のみであったため、計画、英語の台本作りや媒体の作成は放課後等に自主的に集まって完成させた。
- 2) 制作を通して自分の英語学習の弱点を客観的に把握することができた。自分たちが制作する過程で感じた難しさだけでなく、他グループの発表を聞いてその長所や自分たちの足りなかったところを具体的に知ることができた。
- 3) 英語や媒体に関するものだけでなく、「聞いている人に伝わるようにする表現したい（話したい）」とコミュニケーションの基本である「相手」のことを考えて発信するというところに気づいた学生が多数いたことは意味のあることだったと考える。また「対象年齢の子どもにわかるような表現や言葉遣いを考えるのが難しかった」という感想から、聞き手に合わせることの必要性を学んだことがわかる。これは制作に取りかかる前に「対象年齢」を明確にすることで学生に意識づけ、また英文チェックの際「この表現で子どもに理解できるか」というコメントをつけることで、日本語同様英語でも年齢や状況に応じて表現を変えなければならないことに気づいたようだった。

上記の3点からグループ制作の6項目の目的（前述）に対して学習効果が見られた。

8. グループ制作における問題点および改善方法

学生の記述内容や授業中の様子から浮かび上がってきた問題点を以下に挙げる。

- 1) 英文を完成するだけの力をつける指導をする機会がなかった。そのため日本語の台本はうまく作ることができたが、英語がうまくいかないというジレンマに苦しんだ。PCの自動翻訳機を使ったと思われるものも散見した。
- 2) 他グループの発表を楽しむだけの英語の力がない学生が多数いた。
- 3) 発表時の英文の読み方に問題を抱えた学生も多かった。
- 4) 発表前に挨拶をしない、うつむいてしゃべるなど態度に問題がある学生も複数見られた。
- 5) グループ評価のため、貢献度が少ないと思われる学生の評価もあがった。
- 6) 最終日に発表会をしたので、全体のフィードバックができなかった。
- 7) 最終の代表発表会に発表者以外の学生が誰も参加せず、聴衆は教員のみであった。

上記の問題点を改善するためには、授業内外で取り組みの見直しが必要である。例えば、あらかじめ英語表現を多く学習しておく、制作発表の目的の周知徹底を図ることや発表マナーに触れておく等の授業計画の工夫と、授業外で学生が教員と自主練習できる時間をつくる等の授業外での支援を明確にしておくことである。また評価に関してはグループ全体だけでなく、各学生が適正に評価されるような方法を考案する必要がある。

9. おわりに

前述の無記名アンケートで項目3「歯科衛生士という職業では英語が必要だと思いますか」で「はい」と答えた学生43.8%と高く、また項目2「就職の際、英語ができると有利だと思いますか？」で「は

い」と回答した学生は 79%であった。具体的にどのような英語力が必要であるかはわからないながらも、大半の学生は将来英語が必要になると考えている。しかし、項目7「将来海外で医療従事者として活動したいですか?」という問いに「はい」と回答した学生は 11.7%であり、「いいえ」は47.2%と約半数だった。英語の必要性は感じながら、自分の将来を海外の活動に結びつけている学生は現時点では少数である。この結果を受けて、今後は歯科衛生士の専門教員との連携をとり、実際の業務で英語がどのように必要であるかを検証し、学生に理解させる必要があると考えられる。また英語を「学ぶべき教科」ではなく、ツールとしてコミュニケーションに使い、世界や異文化に目を向ける内容を授業に盛り込んでいくことが重要ある。

そのためにもこのような発信型のグループ制作は有効な手段のひとつであるため、今後も継続してその効果を調べていく。また学生たちの「楽しかった」というコメントが一過性のイベントの感想に終わらないように、外部で発表の場を設けるなどの継続的な自律学習に結びつく工夫が必要となってくる。

発表会にご来場くださった野村慶雄学科長はじめ口腔保健学科の先生方、発表タイトルに関して示唆をくださった先生方に深く感謝申し上げます。本実践報告に制作物の掲載を快諾してくれた学生諸君にも心より感謝します。

参考文献

- 江利川春雄編著：協同学習を取り入れた英語授業のすすめ，大修館書店，2012.
- 津田晶子：大学英語教育における協同教育の可能性と課題，協同と教育，第3号，p.34-41，2007.
- 寺内一・山内ひさ子・野口ジュディー・笹島茂編：21世紀のESP（英語教育学大形 第4巻），大修館書店，2010.
- 秦喜美恵：大学での学びのための態度形成を目指した授業作り―「協同学習」での仕掛けと工夫―，社会システム研究，第26号，p.119-135，2013.

Appendix A

無記名アンケート項目とその結果

1. 英語は好きですか？
2. 就職の際、英語ができると有利だと思いますか？
3. 歯科衛生士という職業では英語が必要だと思いますか？
4. 授業以外で英語に触れていますか？（音楽 映画 英会話教室など）
5. これまでに海外に行った経験はありますか？
6. 3年次の海外研修に参加したいと考えていますか？
7. 将来、海外で医療従事者として活動したいですか？（海外での就職や海外青年協力隊やボランティアなどの活動を含む）
8. 高校の3年の時、英語は1週間に何回授業がありましたか？その時の科目名または内容を教えてください。
9. 「医療英語」では何を学びたいですか？この科目に対して何か不安なことはありますか？

集計結果 質問項目 1~7 (89名：履修登録者 90名中 1名欠席) %

| 項目番号 | はい | いいえ | どちらでもない |
|------|------|------|---------|
| 1 | 19.0 | 54.0 | 27.0 |
| 2 | 79.0 | 0 | 21.0 |
| 3 | 43.8 | 6.7 | 49.4 |
| 4 | 41.6 | 56.2 | 2.2 |
| 5 | 48.3 | 51.7 | 0 |
| 6 | 18.0 | 42.7 | 39.3 |
| 7 | 11.2 | 47.2 | 41.6 |

注) 割合は四捨五入して表記したため、合計が 100%にならないことがある。

Appendix B (2013年度 グループ制作 テーマ 一覧)

| | | | |
|----|---------------|----|-------------------|
| 1 | 歯の役割 | 2 | むし歯って何？ |
| 3 | フッ素の働き | 4 | むし歯の原因 |
| 5 | むし歯予防法 | 6 | 歯磨き法, デンタルフロスの使用法 |
| 7 | おやつを取り方 | 8 | 大人の歯と子どもの歯 |
| 9 | 第1大臼歯 | 10 | 噛むことの大切さ |
| 11 | 唾液の役割 | 12 | プラークって何？ |
| 13 | 歯科医院ってどんなところ？ | 14 | 歯肉の健康 |
| 15 | 喫煙と歯周病 | 16 | その他 |

Appendix C (グループ計画シート)

2013年度 口腔保健学科 グループワーク 計画シート

グループナンバー ()

1. メンバー表

| 学生番号 | 氏名 | 学生番号 | 氏名 |
|------|----|------|----|
| | | | |
| | | | |
| | | | |

2. 題材

| 番号 | テーマ |
|----|-----|
| | |

3.制作物の種類 (紙芝居・歌など)

4. 対象年齢

5. 目的・ねらい (一番伝えたいことは何か) ★ひとつに絞ること

6.目的やねらいを伝えるために5分をどのように使うか?

| | 導入 | 展開 | 締めくくり |
|----|----|----|-------|
| 内容 | | | |
| 分 | | | |

Appendix D (他グループの評価表内容)

| | | |
|--------|--|---|
| グループ番号 | 評価： A (Very good) B (Good) C (Fair) | 理由：どの点が良かったか。どうすればもっと改善できると思うか。などできるだけ具体的に。 |
|--------|--|---|

Appendix E グループ発表後の「ふりかえり」用紙項目

| | | | |
|---|------------------------------------|---|----------|
| ① | グループでの自分の役割 | ② | 難しかったところ |
| ③ | やりがいがあったところ | ④ | その他 |
| ⑤ | 制作をして英語学習での自分の課題が見つかりましたか？それは何ですか？ | | |

Appendix F (代表者発表会プログラム)

| |
|--|
| <p>Kobe Tokiwa Junior College</p> <p>Oral Health — Presentations</p> <p>17:00-17:30 Monday, 10th February 2014, Room 1205</p> <p>1. Let's Learn About Toothpaste</p> <p>2. Let's Chew Well!</p> <p>3. What Are My Teeth For?</p> <p>4. First Visit to the Dental Clinic</p> <p>5. Why Do You Get Cavities?</p> <p>6. Brush Your Teeth!</p> |
|--|

